

林道の改良による孤立集落の防止

5か年加速化対策

国土強靱化

災害時に効果が見込まれる事例

NATIONAL RESILIENCE

概要 要：徳島県三好郡東みよし町において、南海トラフ地震等の災害時に代替路となる路線において、舗装及び擁壁の改良を行った。これにより、県道が被災した場合も集落の孤立を防ぐことができる見込み。

対策名：4 山地災害危険地区等における森林整備対策＜5か年加速化対策＞【林野庁】

■ 実施主体：徳島県三好郡東みよし町

■ 実施場所：徳島県三好郡東みよし町

■ 事業概要：東みよし町は、南海トラフ地震の際には震度6弱が想定され、山中を走る県道周辺の集落は土砂災害警戒区域として指定されている。林道三蔵窪線は町道水の丸幹線を介して県道に接続しており、県道が被災した場合の代替路となることが期待されており、当該林道が確実に機能するよう、劣化していた舗装及び擁壁の改良を行った。

■ 事業費：4,180万円（令和3年度）

（うち5か年加速化対策（加速化・深化分）4,180万円）

■ 効果見込み

本事業により、南海トラフ地震の際には、林道が県道が被災した場合の代替路となり、集落の孤立を防ぐことが期待される。

また、当該林道における利用区域において、今後も継続して持続的な森林整備が行われることで、森林の多面的機能の発揮にも貢献する。

